●グローバル化時代の医療・検査事情 12

雲南の旅　その3
西双版納（シーシュアンバンナー）_2012年

岩本愛吉（いわもと あいきち）
Aikichi IWAMOTO

中国の友人と話していると、筆者の耳には「西双版納」が「シーシュアンバンナー」と聞こえるのだが、インターネットで検索すると結構奥が深い。第1に、この地は「12の千の田」を意味するタイ語「シップソーンパンナー」が語源らしい[1]。如何にもタイ語の響きがする「シップソーンパンナー」を中国標準語で音写、漢字表記したのが「西双版納」だそうだ。第2に、中国語と日本語の発音が異なるのは当然だが、破裂音（baとpaなど）の違いは非常に微妙である[2]。「シーサンパンナ」と書かれていることも多いが、「版」は「ban」なのか「pan」なのか、「バン」と表記すべきか「パン」が適当か。要するに、タイ語を語源とする地名を漢字表記し中国語読みした場合の音を、カタカナでどう表記すべきか、という問題なのだ。あまり拘ると本稿の目的から外れてしまうので、本稿では以後、漢字表記「西双版納」で統一することとした。

図1　2012年8月西双版納への行程
矢印がおおよその移動経路

★が宿泊した①玉渓（ユーシー：8月17日）、②西双版納［☆：8月18日中国科学院植物園、8月19日勐腊（モンラー）の2泊］、③芒景（マンジン：8月20日）、④建水（ジンスイ：8月21日）、⑤昆明（クンミン：8月22日）。

西双版納・傣（ダイ）族自治州は雲南省の最南端に位置し、ラオス、ミャンマーと国境を接している。標高約500mで亜熱帯気候である。中国人に対してもエキゾチックなイメージを与える地域で、雲南省以外の住人で西双版納を訪れたことのある人は比較的少数だろうと思う。日本から昆明への直行便がないため、2012年8月16日広州に飛び、中山大学・劉煥亮教授の学生約10人と食事を共にした後、17日に劉教授とともに昆明に移動した。広州の霊長類研究センター所長で、2010年に麗江でも会合した劉暁明（リュウ・シャオミン）博士が同行した。

I. 玉渓

8月17日、趙尚徳（ジャオ・シャンデ）元雲南CDC所長、李洪（リ・ホン）部長、肖義澤（シャオ・イーヅゥー）部長達が空港で出迎えてくれた。5年の歳月をかけて完成した巨大な昆明長水国際空港が約2ヵ月前に開港しており、空港は真新しかった。今回は雲南CDCでエイズ教育を担当する莫冷鶴（モー・ランフゥー）さんと高校生のお嬢さんも同行した。中国では、子供は父方、母方どちらの姓でも選べるので、お嬢さんは父方の王（ワン）を名字としている。今回も趙先生の信頼厚い王治剛（ワン・ツーガン）さんがドライバーで、雲南CDC関係者

東京大学名誉教授

が５人、広州から２人、岩本とドライバーの王さんを入れた９人の大所帯で、ハイエースを使った。飛行場からまず昆明の陽光山水・江湖菜館というレストランに立ち寄り、昼食を摂った。一行は早速キッチンに物色に行く。一角の金属ケージには生きた鶏はもちろん、ウサギや剛毛に被われた哺乳動物もいた。狸か、ハクビシンか、筆者には区別がつかなかった。キッチンでは鶏が多数、丸焼きにされていた（**写真１**）。テーブルには蜂の幼虫も出てきた（**写真２**）。雲南、特に南部では、重要な蛋白源として蜂がよく食卓にあがる。昼食後、玉渓（ユーシー）市に向かった。

観光、普洱（プーアル）茶、野菜栽培などと並んで、煙草生産は雲南の主要産業である。玉渓市に入ると玉渓 CDC の職員が出迎えてくれ、煙草会社が管理する大きな公園に向かった。芝生や木々がよく整備され、若いカップルが結婚写真の撮影に来ていた。丘の上から工場を一望すると、煙草会社の“私設”ゴルフ場が見えた（**写真３**）。雲南には愛煙家が多く、挨拶として煙草を交換する姿を良く目にする。大きな水パイプを置くレストランも多い。趙先生も愛煙家で、香格里拉への道中（2010 年）でもしばしば水パイプを使って煙草を吸っていた。この２年間に肺がんが見つかって闘病中だったが、「玉渓までは一緒に行く」とこの年も同行してくれた。

玉渓 CDC を訪問した後（**写真４**）、趙先生を囲んで夕食会となった（**写真５**）。ここでも白酒に使う杯

写真３　玉渓の煙草工場とその公園。
遠くに私設ゴルフ場が見える

写真１　レストラン陽光山水・江湖菜館のキッチン

写真４　玉渓 CDC 外来入り口にて。前列中央が趙先生

写真２　雲南の蜂料理

写真５　趙先生を囲む夕食会

写真 6　玉渓 CDC 部長、李洪部長と談笑する筆者

写真 7　中国科学院熱帯植物園の見取り図

は大きく、コップ酒の様相だった（**写真 6**）。翌朝、趙先生は玉渓 CDC 職員の車で昆明にもどり、我々は西双版納に向かった。

Ⅱ. 西双版納

8 月 18 日、昆明から西双版納まで高速道路を一気に南下した。昆明から東南アジアに向かって高速道路がほぼ開通しており、24 時間以内に昆明からバンコクまで一気に南下できるらしい。雲南省と東南アジアを結ぶ物流の大動脈として期待されているが、通行料金が高く、物資輸送の幹線としてはメコン川を使っているというのがまだ実情らしい。西双版納に入ると、まず中国科学院の熱帯植物園に向かった。周囲を川に取り巻かれた中州全体が森のように見える。川にかかった一本の橋だけが、中州への出入り口のようだった。こんもりと静まりかえった熱帯雨森を、雨で増水した濁流越しに見ていると、映画ジュラシック・パークのイントロ部分くらいの迫力がある。橋を渡り、木立に囲まれた狭い通路を植物園の中央に進んで、プール付の素敵なホテルにチェックインした。部屋に入ると、ベッドサイドには電気蚊取り器と蒸散型殺虫剤のパックが置いてあった。西双版納を含む中国南部では、近年デング熱が多発していることを思い出したが、蚊に悩まされることは無かった。

8 月 19 日午前中、植物園を見学した。西園と東園があり、東園の方は主に熱帯雨林の保全を目的とし、西園が綺麗な植物園として整備されていた（**写真 7、8**）。

その後、勐腊（モンラー）に移動し、当地のホテルにチェックインした後、中国とラオス（老撾）の国境に向かった。現地職員に引率して貰って、中国側の国境検問所から緩衝地帯を進んだ。1km 弱の緩衝地帯の中間地点に国境記念碑があった。記念碑の各面には、それぞれの文字で国名が刻されていた（**写真 9、10**）。後から誰かが冗談っぽく教えてくれた。「検問所を出て進んだのか？中老国境では、時々ラオス側からライフルで発砲されるんだぞ。」「早く言ってよー！」

写真 8　中国科学院植物園：オオオニバスの咲く池

国境から西双版納熱帯雨林国家公園に向かった。熱帯雨林を自然な状態で保全している国立公園だ。望天樹（Sky Tree : Parashorea chinensis）という高木の上部に吊り橋が架けられていた。地上 30－40m はあろうか。中国の安全管理クオリティーを全面信頼していたわけではないが、大人一人 100 元払って、我々も吊り橋を渡ってみることにした（**写真 11**）。

夜は勐腊 CDC の劉所長を交えて俸族料理のレストランで会食し、地元産の白酒で乾杯した（**写真 12**）。この辺りには、俸族即ちタイ族が多い。タイ

写真 9　中老国境碑。ラオス側から中国を望む面にはラオス文字で国名が記されている

写真 10　中老国境碑。中国側からラオス側を望む。漢字で中国と記されている

写真 11　望天樹上の吊り橋を渡る筆者

族（タイ語民族）はタイ人（タイに住む人）という意味ではなく、タイ・カダイ語族（タイ・カダイ語を話す人達）の一部だという[3]。タイ族の中には、タイで多数を占めるタイ族、ラオスで主要なラーオ族、中国雲南省西双版納に住むタイ・ルー族などが含まれる。中国では、タイ人を泰（タイ）、雲南に住むタイ族を傣（ダイ）と区別する。タイ・カダイ語に

写真 12　ダイ料理を肴に勐腊 CDC 劉所長らと歓談する筆者

写真 13　傣族レストランで地元女性に教わってダンスに興じる李洪部長と筆者

含まれるチワン語を使う中国広西壮（チワン）族自治区の壮族もタイ族である[4]。中国では少数民族の傣族、壮族に独自の漢字を当てて、それぞれの独自性を強調しているようだ。勐腊では寺院建築もタイ様式で、日本で鬼瓦を据える場所にある棟飾りも繊細で反り返った形をしており、タイの寺院を見るようだった。ダンスもそうだ。タイのダンスは手首の屈伸を多用し、手首と手指を優雅に伸展するが、この地域でも手首と指をしなやかに反り返らせて踊る女性の姿が美しかった（**写真 13**）。

8 月 20 日、勐腊から西双版納の州都、景供（ジン・ホン）市に移動し、西双版納 CDC の范（ファン）所長を表敬訪問した（**写真 14**）。西双版納はラオス、ミャンマーと国境を接するため HIV 感染者や AIDS 患者が多いだろうと想像していたが、これまで HIV/AIDS はそれほど大きな問題とはなっていない。しかし国境を越えた物流が活性化し、経済が発展してくると近い将来大きな問題となる可能性はあるだろう。

写真 14　西双版納傣族自治州 CDC の范所長を表敬訪問

本務のため空路昆明に戻る肖義澤部長を景供空港へ送り届けた。前日の深酒で、無事昆明まで飛行機に乗っていけるか不安になるほど肖部長はふらふらだった。中国では各地でアルコール濃度の高い白酒を飲む。確かに強い人もいるが、アルコール代謝の遺伝子分布は我々日本人とさほど変わるはずがない。酔っ払うのは一緒だ。昼食後、劉暁明博士も広州へ戻った。

Ⅲ. 芒景

李部長、劉教授、莫親子、ドライバーの王さんと筆者の 6 人は西双版納州を離れ、普洱茶で有名な普洱市に入った。普洱市は面積的にはかなり大きい地級市（Prefecture-level city）の一つである[5]。雲南の道路を熟知する王さんが、珍しく地図を広げた。少数民族の布朗（ブラン）族が住む芒景（マンジン）という部落に行く予定だが、地図に載っていない。付近の農家や工事中の作業員に聞きながら、細い山道を登って芒景に着いた。20 ～ 30 軒程度の集落がいくつか集まって、100 軒程度の部落を作っているようだ（**写真 15**）。斜面を利用して普洱茶を栽培し、生計を立てている農家が多いようだ。普洱茶は西双版納州、普洱市など、雲南省南部－南西部を原産地とする中国古来のお茶である[6]。運搬のため、円盤投げに使う円盤のようなディスク状に圧縮されている（茶餅）。胃に優しく、コレステロールを下げるなどの効果も期待されている。いわゆる黒茶で、実際入れてみるとその色にびっくりする。集落の中の一軒に立ち寄り、藁葺きの茶室で雲海を見下ろしながら頂いた普洱茶は格別だった。とても安価で、茶餅

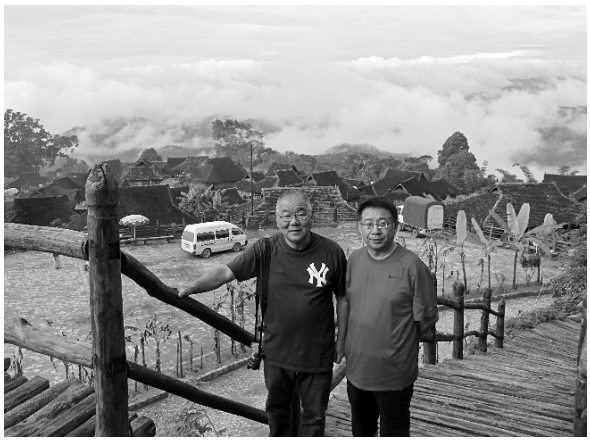

写真 15　雲海を見下ろす芒景の布朗族集落にて。筆者と李洪部長。後ろのハイエースが今回の使用車

を 5 枚ほど購入して日本の土産にした。帰国後、いつもお世話になっている数人の方々にお届けした。礼状に「秘境の味」とあったり、「あまり芳しくなかったか」と思わざるを得ないコメントも頂いたので、後から自分で飲んでみることにした。現地で飲んだ印象とは全く異なり、色は烏龍茶より薄くとてもきついお茶で、いわゆる「お茶酔い」を経験した。人に差し上げた後で、ネットで調べて普洱茶に生茶と熟茶があることを知った。芒景で手に入れたお茶は生茶で、保存するほど味や香り、色などに経年変化が出て、茶質が上がるものだったようだ。購入したお茶はまだ新しかったに違いない。

芒景では、「布朗族皇子」を名乗る方の自宅にあるゲストハウスに泊まった（**写真 16**）。写真で見るごとく素晴らしい宿舎だったが、やはり山中である。レバーを引っ張って屋上に溜めた雨水を出す仕組みで、シャワーを使うというわけにはいかなかった。

写真 16　芒景で筆者が一泊した民家のゲストハウス

Ⅳ. 建水

8月21日はドライバーの王さんには過酷な日程だった。芒景を早朝8時前に出発し、高速道路を一気に北上した。昼時に一旦高速を降りて道ばたのレストランに入り、元気に走り回る黒い鶏を一羽絞めての昼食となった。その後再び高速を北上し、一般道へ出たのが午後5時過ぎだった。地図で見ると、今日の目的地の建水はすぐそこのようだった。しかし中国の山道を走行するのは尋常ではない。真っ暗闇の中、何度もヘアピンカーブを繰り返して急斜面を下り、地形に沿って回り道を進まなければならない。建水に着いたのは午後9時を回っていた。李洪部長の教え子だという建水CDCの医師が迎えに来てくれた。歩道まで机を出したバーベキュー店で、歓迎の焼烤（シャオカオ：バーベキュー）となった（**写真 17**）。さらに、建水の著名な書家である黄さんの奥さんが迎えに来て、黄さんの自宅を深夜に訪問することなった。素晴らしい黄さんの字を拝見し、酔った勢いも手伝い、筆者も「I LOVE 雲南」と書いた（**写真 18**）。

写真 17　建水の焼烤店でのバーベキュー

写真 18　深夜、酔った勢いで書家の自宅で毛筆書字する筆者

8月22日、黄さんの作業場を見学し、昼食を共にしてから昆明に戻った。8月23日、昆明から広州を経由して帰国した。

文　献

1）シーサンパンナ・タイ族自治州。ウィキペディア。2017年5月13日閲覧。https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%8A%E3%83%BB%E3%82%BF%E3%82%A4%E6%97%8F%E8%87%AA%E6%B2%BB%E5%B7%9E

2）無気音と有気音の真実。2017年5月13日閲覧。http://www.chinesemaster.net/pronunciation/intensive-course/plosive.html

3）タイ族。ウィキペディア。2017年5月13日閲覧。https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%A4%E6%97%8F

4）柿崎一郎。「物語 タイの歴史：微笑みの国の真実」。中公新書。

5）岩本愛吉。「雲南の旅 その1　なぜ雲南か？」。モダンメディア **63**(2): 22-25, 2017。

6）プーアル茶。ウィキペディア。2017年5月13日閲覧。https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%BC%E3%82%A2%E3%83%AB%E8%8C%B6#.E6.AD.B4.E5.8F.B2。